

ふくろいスマイル座談会 ①三川地区

【開催概要】 総合計画及び都市計画マスタープラン策定のために、地域の未来について、大場市長と住民との意見交換を行う「ふくろいスマイル座談会 三川地区」を以下の通り開催しました。

日時	令和6年9月14日(土)10時~11時40分
場所	三川コミュニティセンター【参加人数:43人】
内容	1 開会 2 まちづくり協議会/会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 報告事項 (1)袋井市総合計画策定の進め方について (2)袋井市都市計画マスタープランの見直しについて (3)地区まちづくり協議会における「活動方針」の策定について (4)質疑応答 5 意見交換「袋井の未来のコト」や「地域の将来のコト」など 6 閉会



「ご意見・ご提案」用紙から

- 子育て世代がいなくなってしまうのではと懸念。地域の子育て環境の情報が、市内外の子育て世代に伝わることに加え、三川で子どもを育てたいと思う家族が増えると良い。
- 発災時の一時避難地を、三川地区と企業間で協定書を締結している。協定書内の費用負担について確認願いたい。
- 自治会活動支援のあり方の一つとして、消防団への支援のあり方を検討していただきたい。
- 市の計画になじみのない市民や中学生にも分かりやすい説明をしてもらいたかった。

●当日の意見交換の主な内容（※現総合計画の「政策」分野ごとに整理しました）

健康長寿で暮らしを楽しむまち

- 三川地区の地域医療について、今後の展望を聞きたい。
⇒聖隷袋井市民病院に総合健康センターを併設し、健康や介護の拠点となっている。建て替えも検討する中で、地域医療との連携についても考えている。

活力みなぎる産業のまち

- 北部地域のにぎわいに資する施策がみえてこない。
⇒森町袋井インター通り線の整備を促進中。整備が完了すると市外からの来訪者にとっても利便性が増す。沿線エリアではにぎわいの創出や産業誘致につながることを期待できる。

市民がいきいきと活躍するまち

- 情報弱者（特に高齢者）への配慮が欲しい。
⇒高齢者が講師となり年齢が近い人同士で教え合うことで効果が出ている。参考にしたい。

快適で魅力あるまち

- 農業者が高齢化し、放置された温室も散見される。農地の宅地利用や太陽光発電の設置などの利用を積極的に図ってほしい。
⇒耕作放棄地については、国としても農地の保全と開発のバランスを取っていく方向性を出しており、農地から用途変更することはハードルが高い。
- 敷地川に架かる橋で崩落している橋がいくつかある。
⇒三川地区の方と情報交換を密にしながら検討をしたい。
- 高齢者の移動手段としてかわせみ号がある。かわせみ号をもう1台、追加してもらえるとよい。
⇒法体制などが変わり、新たな交通手段がでてくれば、その手段を検討していく。複数台の導入が必要であれば検討していきたい。

安全・安心に暮らせるまち

- 自助・共助・公助は重要だが、自助について市民の意識とのミスマッチがある。
⇒三川地区は以前から頑張ってもらっている。それ以上に社会的な必要性が増しているので、更に伸ばしてもらえればと思う。
- 住宅の浸水もよくある。敷地地区の河川改修が進み、水位が恒常的に上昇しているところもあり危険を感じる。
⇒水災害が多く発生し、対策が追いついていないことをご理解いただければと思う。
- 高台への避難所について、車で行けるような整備をしてほしい。また、企業や病院と連携して避難所を確保してほしい。
⇒避難所については、地域と相談しながら確保できるように努めていきたい。
- 道路のセンターラインや横断歩道、路側帯などの白線が消えている箇所が多数見受けられる。
⇒県とも連携しながら、区画線の引き直しなどを進めていきたい。